

歴史学と人物研究——方法論的意味

- 伝記(人物伝) Biography
 - Bíos(“life”) + grphein(“to write”)
- 自伝(自叙伝) Autobiography

⇒ 英雄伝、聖人伝(hagiography)、国王伝(年代記)

- 人物の偉業を称える
- 教訓を汲み取る
(支配者、支配=被支配の正統化)

プルタルコス『対比列伝(英雄伝)』、等等。

- 19世紀的歴史学(政治史、外交史、人物中心的歴史理解)への批判

⇒社会学

⇒社会経済史学——事件、個人の役割の軽視

- 階級・社会集団の重視
- マルクス主義的歴史学: 発展段階論
- 数量化
- 系の歴史学
- 構造主義

- 「新しい歴史学」——日常性への注目, 心性の重視
- 歴史学の関心の移動
 - Why 因果関係
 - How 様態
- 「社会史」研究の隆盛——ただし、「個人」は社会集団=階層のなかで捉えられる。
- 「歴史叙述」への関心——ローレンス・ストーン
“The Revival of Narrative” (1979)

1980年代以後の動き

- プロソポグラフィー(Prosopography)的研究への関心
 - 家系・経済・社会・政治などの面にわたる人物間の関係に関する研究
 - 集団履歴調査法
- ミクロストリア(Micorstoria)への関心
 - 個人と環境
 - 権力構造
 - 「社会的に限定された役割」とそれからの解放の可能性

- (日本における動き) 「自分史(生活史)」の記述の提唱
 - 色川大吉『ある昭和史——自分史の試み』(1975年)
- 社会学・文化人類学
 - オーラル・ヒストリー(口述史)
 - オーラル・ライフヒストリー(口述の生活史)
- 「歴史」と「記憶」
 - 従軍慰安婦の問題
 - 「スペイン内戦」の記憶
 - 《歴史的記憶法》

《伝記》の扱い方——歴史学と歴史小説の違い

- 歴史的仮説 ≠ 真実
- 歴史的人物研究 ≠ 歴史小説

⇒ 仮説検証性

- 事実立脚性
- 論理整合性

【参考】ジャック・ル・ゴフ(岡崎敦・森本英夫・堀田郷弘訳)『聖王ルイ』(新評論、2001年)